

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人出雲市芸術文化振興財団	
施 設 名	出雲市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,586	(千円)
公演事業	5,562	(千円)
人材養成事業	6,317	(千円)
普及啓発事業	707	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	出雲未来図活性化事業 第14回 ファミリーコンサート	2019年4月21日	演目：ミニオン序曲（A.トマ）他 出演：出雲芸術アカデミー受講者 他 指揮：中井章徳 他	目標値	550
		大社文化プレイス		実績値	575
2	出雲未来図活性化事業 出雲フィルハーモニー 交響楽団 第23回定期演奏会	2019年7月15日	演目：序曲二長調（山田耕筰）他 出演：オーケストラ参加者 他 指揮：中井章徳	目標値	900
		出雲市民会館		実績値	776
3	出雲未来図活性化事業 出雲 Jr. フィル 第7回 プロムナードコンサート	2019年11月10日	演目：ロザムデ`序曲（シュペルト）他 出演：出雲 Jr. フィル 他 指揮：中井章徳	目標値	550
		大社文化プレイス		実績値	533
4	出雲未来図活性化事業 出雲の春音楽祭 2020	公演中止	新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	900
		公演中止		実績値	0
5	出雲未来図活性化事業 プレミアムステージ vol.1 カナディアン・ブラス 結成50周年ツアー in 出雲	2020年1月25日	演目：トッカータとフーガ`二短調（ハ`ツハ）他 出演：カナディアン・ブラス ※学生を対象としたクリニックを実施	目標値	900
		出雲市民会館		実績値	1,000
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	





## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>1 ミッション</p> <p><u>出雲市ならではの芸術文化活動の促進</u></p> <p>コロナウイルスの影響で中止となった事業があったが、その他は計画通り実施し、事業評価でも高評価を得た。</p> <p><u>芸術文化を担う人材の育成</u></p> <p>出雲芸術アカデミーを通し青少年の人材育成に寄与できた。また専門的人材の育成・確保を目的とする講座を実施した。要望段階で計画していた交流演奏会（北九州演奏旅行）は、先方の都合で2020年度に延期となった。</p> <p><u>市民主体の芸術文化活動の促進</u></p> <p>吹奏楽連盟やメセナ協会等と連携・協力し事業を進め、市民の文化活動への支援も行った。</p> <p><u>芸術文化の啓発</u></p> <p>20か所の教育・福祉施設でアウトリーチ事業を実施し、音楽芸術の普及啓発に努めた。</p> <p><u>貸館・管理運営事業の促進</u></p> <p>市民や利用者にとっての安心安全利用と公平で公正な管理運営に努めた。</p>
<p>2 ビジョン</p> <p><u>「音楽のまち出雲」の推進</u></p> <p>出雲芸術アカデミーの講座運営、各種コンサート及びアウトリーチ活動等、多様な事業を教育機関や各種文化団体及び市民の参加・協力を得て取り組んだ。</p> <p><u>貸館・管理運営事業</u></p> <p>前述の他、コロナウイルスの影響による利用キャンセル等については、親切的な対応を心掛けた。</p> <p><u>経営の安定化のための方策</u></p> <p>国や市の負担金・補助金、特定費用準備資金、出雲芸術アカデミー関係の個人寄附金等をもとに計画的に事業を推進するとともに専門的職員及び芸術文化活動の経験のある職員の計画的な採用・配置に心がけている。</p>
<p>3 地域の特性・ニーズ等</p> <p><u>「音楽のまち出雲」の推進</u></p> <p>音楽は出雲市民の誇るべき文化で、出雲芸術アカデミーや教育機関、市民活動を通じ次世代に受け継がれている。</p> <p><u>出雲ブランドを生かしたまちづくり</u></p> <p>出雲ブランドによる情報発信として、出雲の春音楽祭において「神話のふるさと」である出雲の風土に密着した委嘱作品「連作交響神楽」に取り組んでいる。</p>
<p>4 施設の強み・特色</p> <p>音楽事業を通して出雲市民会館と各地域のホールの特性を生かした各種事業を展開した。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
長引く経済の停滞とともに、過疎化、少子高齢化に伴う地域コミュニティの衰退や地域伝統文化などの担い手不足に象徴される地方の現状において、すばらしい芸術作品に接する機会を設けたり、人材育成や学校・地域への働きかけを行うことで、市民が心の豊かさを真に実感できるようにするための当該助成の文化・社会的意義は大きい。経済的意義については出雲ブランドを生かした取組が更に必要であり、引き続き効果的な方策を検討、実施していく。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1 公演事業

##### 目 標

新型コロナウイルスの影響で中止となった事業があったが、実施した事業については、どの事業も当初目標は概ね達成できた。

##### 指 標

各指標の達成度は下表のとおり。今年度から指標に加えた質的目標と社会的目標は、出雲市芸術文化振興会議が行う事業評価の項目であるが、達成度が高かったため、今後は目標の設定値を上げることも検討する。

公 演 名	集客目標	顧客満足度	質的目標	社会的目標
①ファミリーコンサート	103%	112%	—	—
②出雲フィル定期演奏会	85%	106%	105%	93%
③出雲 Jr. フィルコンサート	96%	107%	112%	107%
④出雲の春音楽祭 2020	—	—	—	—
⑤カナディアン・プラスコンサート	110%	110%	118%	103%

#### 2 人材養成事業

##### 目 標

講座は、アカデミー運営会議・企画会・講座運営会議等を計画的に開催することで、指導者の意思疎通を図り安定的な運営ができた。また、指導者の意見を講座に生かすため平成 30 年度から始めた指導者との個人面談を継続して行った。

アートマネジメント人材育成事業では、オペラ講座を実施し「出雲オペラ」への機運醸成につなげることができた。

##### 指 標

講座の指標はやや下回った（受講者数：指標達成度 95%）が、これは子ども達の習い事の多様化や保護者の就労増加に伴う受講生の減少傾向によるものと考えている。講座内容の見直しや無料体験講座の開講等受講生確保に引き続き取り組むこととしている。

アートマネジメント人材育成事業は指標を下回った（参加者数：指標達成度 66%）が、内容は充実しており、参加者（出雲の春音楽祭出演者や財団職員）にとって知識・意欲の向上につながったものと考えている。

#### 3 普及啓発事業

##### 目 標

アウトリーチ事業は受入側の細かな希望を取り入れる体制を確立し、より充実した内容で実施できた。また、アウトリーチ体験者にコンサートに来てもらい、劇場とアウトリーチ先の関係性の強化につながった。

##### 指 標

アウトリーチ参加者と春まちコンサート入場者の合計数は指標を大きく上回った（指標達成度 143%）。コンサートにおいて、訪問施設以外からの集客が多数あった結果であり、その分アウトリーチ体験者のコンサートへの来場目標は大きく下回った（指標達成率 3.6%）。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演・人材養成・普及啓発の各事業は、主に出雲芸術アカデミー講座運営事業を軸にして、適切な準備期間を持って実施した。新型コロナウイルスの影響で中止となった事業もあったが、各事業の期間・事業費は概ね適切であったと考えている。

#### 1 公演事業

##### ①第14回ファミリーコンサート

出雲芸術アカデミー受講者の1年間の集大成を披露できた。

##### ②出雲フィルハーモニー交響楽団定期演奏会

3日間のオーケストラセミナーを実施し、質の高い演奏を披露できた。

##### ③出雲 Jr.フィル 第7回プロムナードコンサート

出雲芸術アカデミーの子ども達を中心にした単独公演。支援の会からの寄付金も活用した。

##### ④出雲の春音楽祭 2020

新型コロナウイルスの影響により中止となったが、本番に向けた準備期間は適切で、内容も充実していた。

##### ⑤カナディアン・ブラス結成50周年ツアーin 出雲

世界トップレベルの演奏の鑑賞機会となった。学生を対象としたクリニックは次世代の育成につながった。

#### 2 人材養成事業

##### ①出雲芸術アカデミー講座運営事業

公演事業とリンクさせ、指導者や受講者が意欲的に音楽に取り組める環境を創出できた。

##### ②アートマネジメント人材育成事業

2021年の「出雲オペラ」の実施に向けて実践的なオペラ講座を開講し、機運の醸成につなげた。

#### 3 普及啓発事業

##### ①アウトリーチ事業

アウトリーチ先の参加者に鑑賞してもらうコンサートを昨年度に引続き実施した。

事業	当初事業期間	確定事業期間	予算(円)	決算(円)
公-①	2019. 4/21	同 左	1,164,000	1,188,141
公-②	2019. 7/15	同 左	2,981,000	2,616,418
公-③	2019. 11/10	同 左	1,680,000	1,632,691
公-④	2020. 3/8	中 止	5,788,000	2,583,033
公-⑤	調整中	2020. 1. 25	5,578,000	5,174,783
人-①	2019. 4/1~ 2020. 3/31	同 左	17,465,000	15,922,792
人-②	調整中	2019. 10/6、12/6	296,000	176,026
普-①	2019. 6~ 2020. 1	同 左	1,944,000	1,770,713

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 1 資源について

##### (1) キーパーソン

##### 出雲芸術アカデミー芸術監督（中井章徳氏）

芸術アカデミー創設以来、主に管弦楽に関して「音楽のまち出雲」を牽引してきている。第21回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクールで指揮部門最高位の名誉ディプロマ賞及び全部門の最優秀者に贈られるマスタープレイヤーズ大賞を受賞。このほか出身地倉敷市の芸術文化栄誉章や出雲市市民文化賞等を受賞。現在、京都市立芸術大学大学院博士課程作曲・指揮領域でさらなる勉学に励んでいる。現在44歳。

##### コンポーザー・イン・レジデンス（平野一郎氏）及びアーティスト・イン・レジデンス（唐谷裕子）

中井芸術監督の構想により、両者は出雲芸術アカデミーの事業に関わっている。

##### (2) 出雲市民会館の建物設備

県内市町村では最大規模の施設で、迫りや仮設花道、また、所作台・松羽目、定式幕等を常備し、古典芸能をはじめ本格的な舞台公演ができる。2007年にロビー・ホワイエの増床等を行い来場者に親しみやすい空間となった。

#### 2 事業について

##### 公演事業

##### ①ファミリーコンサート

芸術アカデミー受講者の学びの成果を市民に示すことで、受講者の意欲向上及び受講者獲得を目指している。

##### ②出雲フィルハーモニー交響楽団定期演奏会

「学ばなければレベルの向上はない」という芸術監督の考えのもと、出演者は芸術アカデミー受講者やオーケストラセミナー（3日間）の一般参加者からオーディションで決めている。

##### ③出雲 Jr.フィル・プロムナードコンサート

合唱・オーケストラが一体となった作品に挑戦するなど、子ども達の成長を市民にアピールし感動を与えている。

##### ④出雲の春音楽祭 2020

新型コロナウイルスの影響で中止となったが、委嘱作品《連作交響神楽》の上演等、出雲オリジナルの音楽祭としての取組を続けている。

##### ⑤カナディアンプラス結成50周年ツアーin 出雲

世界トップレベルの金管五重奏の鑑賞機会やクリニックの実施により、次世代を中心とした地元実演者のレベル向上につながった。

##### 人材養成事業

##### ①講座運営事業

幼児から社会人までを対象に年間を通じて管弦楽、合唱、邦楽等の音楽講座を行い、その成果発表として出雲市民会館を中心に各種コンサートを実施している。また、指導者（約30名）も年間を通じて行う学術研究会等に参加し学んでいくことが、その条件となっている。

##### ②アートマネジメント人材育成事業

オペラ上演に向けて、講座「オペラコース」（講師：蓮井求道氏、平野一郎氏）を開催した。

##### 普及啓発事業

##### ①アウトリーチ事業

一方的ではなく双方向の関係を生み出すため、アウトリーチ先の参加者に鑑賞してもらうコンサートを、昨年度に引続き実施した。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

「音楽のまち出雲」は、以前より市内において人口に膾炙していたが、平成 22 年度に新たに制定された「出雲市芸術文化振興指針」で正式に位置付けられ、その際、芸術アカデミーは出雲の音楽活動の推進役として位置付けられた。出雲市の芸術文化振興施策を協議する出雲芸術文化振興会議の事業評価において、芸術アカデミー関係事業は高い評価を得ている。

情報発信の取組として、平成 30 年度に行った財団ウェブサイトの刷新や、それに伴う財団の公式フェイスブック及びツイッターの開設、また、芸術アカデミーだよりの発行等は継続して更新・発行を行っている。

出雲芸術アカデミー創設以来の本科（小学生から高校 2 年生）終了生は 140 名近くとなり、プロのプレーヤーとして活動している者や、県内の小・中・高校の教師、出雲芸術アカデミーの講師として、地元の音楽振興に寄与している者も増えている。また出雲フィルハーモニー交響楽団の演奏会に修了生が多数出演するなど、芸術アカデミーの成果は着実に表れている。

これら修了生がアカデミー修了後もアカデミーの発展に寄与できるよう、令和元年度に「出雲芸術アカデミー本科 OB・OG 会」を立上げた。（会員数 20 名：R2. 3 現在）

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### 人事戦略

人事異動を通じて、劇場・音楽堂等の機能強化に資する事業運営のノウハウを他職員に伝え、組織全体で、その層を厚くしていく。

#### 正規雇用率

この5年間の推移は約60%で、数値が低下しないよう努めている。

#### 人材配置、組織内部でのキャリアパス

芸術文化振興部の管理職は2名と財団組織では最多であり、芸術文化振興部係長経験者を同管理職に昇任させている。また、平成31年度は芸術アカデミーの受講経験者を新規採用し、芸術文化振興部に配置した。

#### 劇場・音楽堂間のネットワークの形成

出雲 Jr. フィルの交流演奏会を県内外の劇場と実施している（H27 島根芸術文化センターグラントワ、H29 東広島芸術文化ホール）。また、スキル向上の取組として、人材養成交流事業のなかで、当財団職員を先進施設（千葉県文化会館等）に派遣し、ノウハウの吸収やネットワーク造りに努めてきた。また、アートマネジメント人材育成講座の実施や島根県民会館の地域アーティスト発掘公演との協働などにおいて人材の育成に努めている。

#### 教育機関とのネットワーク形成

これまで「出雲の春音楽祭」や「出雲 Jr. フィルコンサート」に市内小中学校から多くの生徒が参加している。また、市内小中学校も対象としてアウトリーチ事業を展開している。なお、昨年度初めて出雲市教育委員会管理職から芸術アカデミー推進委員が選出された。

#### 安定的な収益基盤と財源確保の取組

出雲市から指定管理料のほか、ソフト事業に対して出雲総合芸術文化祭事業に負担金、出雲芸術アカデミー事業に補助金を受けており、財団及び芸術文化事業の安定的な収益基盤となっている。

#### その他の資金の種類

出雲 Jr. フィルの活動に対して支援金制度を設けており、この数年の金額等は、H28（400 千円、121 件）、H29（274 千円、94 件）、H30（240 千円、90 件）、H31（255 千円、142 件）である。

#### 資金調達の手段

出雲芸術アカデミー講座運営事業では、高額にならないよう配慮しながら受講料を徴収し、その運営に充てている。